

社会人になって思うこと

西村 鈴（コミュニティ政策学科2021年卒業）

今年の四月から社会人生活が始まって、はや半年が過ぎようとしている。私の社会人生活はスタートから波乱万丈だったので、この半年間が色んな意味で濃密すぎて今はもう、遠い昔の大学生生活のことをすっかり忘れてしまった。そして今は完全に社会人の一人として、社会の歯車に組み込まれた。そういう実感がある。私は本当にしっかりと、あの歯車の小さなパーツとしてくるくるくるくる、毎日同じ周期で回転している。くるくる。くるくる。

大学生のとき、社会人の生活は全く想像がつかなかった。私には兄や姉がいないので、俗にいう社員として身近に働く人は父くらいしかいなかったし、その父も別居しているので、自分が社員になるまでほとんどそういう人に触れたことがなかった。

今回は、社会人の毎日が全く想像つかないけれど、なんとなく就活を始めないとやばいなー。という大学三年生や（そんな怠惰な大学三年生がいるのだろうか…私はそうだったけれどみんなもっとまじめなんじゃ…？）大学生生活を就活に全振りしすぎて、至る所から情報を集めまくっている早とちりな大学一年生や二年生。そして見事内定をゲットし、なんか暇を持って余している大学四年生などのあらゆる方々に向けて、このエッセイを書いてみようと思う。

○会社＝中学校

入る会社にもよるけれど、会社は基本「学校」のような場所だ。私は入社式当日にそのように思った。学校に行っていたときに使っていた物理的なものには大抵代替品がある。制服がスーツに代わり、校章が社章に代わり、校歌が社歌に代わる。私の会社では出席の点呼があったし、社歌の斉唱があったし、「起立、礼」という号令もあった。

「事務系」というクラスの中に、可愛い同期の女子を狙う男子（ちなみに私に対し、自分の美の基準ではりんちゃんはなし。とか言ってくる。社会人とは思えない無礼さだ。）がいるし、体育会出身同士で群れを成す系の男たちがいるし、挨拶をしても無視をして、場にいる人数が奇数のときは自分以外の誰かひとり絶対余らせたい系の女子がいるし、そういうこととは無縁だから…と見て見ぬふりをする、自称おし

とやか系の女子もいる。派閥やグループもいつの間にかできていて、同期は会社を辞めるまで同期で、頑張っ探せばその中にたまに良い人がいるけれど、基本的に大学時代にはなかった「面倒な人間関係」が再発する。

朝は早い。5時半くらいに起きる。最近リモートが多いので7時くらいまで寝ているが、それでも7時だ。寝るのは大体10時か11時か、そのくらい。健康的な生活はできるようになるけれど、この大学生の生活リズムから社会人の生活リズムを作り変えるのに大体2か月くらいかかる。それまでは毎日体が疲れ、平日は帰ってきてご飯を作ってお風呂に入って眠る。くらいしかできないかもしれない。

○最初の2か月で無事に社会人に転生

前項で、入社してから最初の2か月の平日はほぼ何もできない、と言った。これはおそらく本場で、私の友人の社会人2年目たち（私は休学留学しているので、大学や高校の同級生はみな1個上になった）も私が疲れているのを見て、「最初の何か月かはそんな感じだよ」と言っていた。同じくして、一緒に新人研修を受ける同期たちも、当初はそのように言っていた。「仕事終わっても何もできない」

しかし、リズムが整ってくるとこれもだんだん慣れてくる。俗にいう「五月病」もこの間に起こるのだが、この2か月間に新人研修という研修を経ることで、私たちは、晴れて「社会人」へと転生するのだ。

社会人。平日はバリバリ働き、帰宅する前にホットヨガとかに行き、ときどき自分磨きのための勉強をし、休日は友人と遊んだり（大学時代とは違うちょっと金のかかった遊び、）旅行に行ったり（これもグレードが上がっている、）趣味の時間に費やしたりする人々。

大学生のとき、私は漠然と社会人のことをこのように捉えていた。違った。

実際、↑のような生活をすることは可能である。日本の雇用慣行の中で最も謎なボーナスというシステムが安月給を帳消しにするので、↑のような生活がしたければ、会社に勤めていて独身で、ましてや実家暮らしなどであれば、一層、可能なのである。しかし、社会人に転生するというのは私の感覚から考えると、↑とは違う。

○社会人に転生すること=気力をなくすこと

社会人になって最初に得るものは、もう「私には自由な時間などない」という自覚だ。生きるのであれば、毎日美味しいご飯を食べ、柔らかい布団で眠りたい。病院に行ったら保険適用になったほうがいいし、将来的なことも考えて、確定拠出年金のことも考えなきゃいけない。だから、自由な時間を少し売って、働く。会社員として働くこと↑は自動的に担保されるが、その代わりに会社員は、自分の「労働力」を1日7.5時間×5日、自由な時間を削り、会社に奉仕しているのだ。

会社員になったことの見返りは大きかった。安定して毎月給料がもらえる。これはほんとうに幸福なことだ。バイトやインターンで稼ぐ給料とは比にならない。しかも毎日9時から17時30分のシフトで何をやっているかと問われても、少なくとも新入社員の間は本当に大したことをやっていない。インターンをせっせと頑張る大学3年の妹に、「お姉ちゃん楽そうでいいね」と言われる。私もそう思う。毎日実は、すごく楽なのだ。すごく楽。リモートで毎日家にいて、昼休みには夜ご飯の準備ができてしまう。すごく、楽。大丈夫かってくらい。

けれど、すごく楽な社会人への転生は同時に虚無を生んだ。なんかすごく楽だけれど、このままこうして一生を終えるのかな、毎日何をしたらいいのかな、こんな感じで暮らしているのかな…等々の漠然とした不安も生んだ。平日はいい意味でも悪い意味でも同じ周期で5日間働いているから、自由な時間は土日しかない。「土日の2日間で私ができることって、何」とか、そういうことを考えるし、土日でも疲れてはいるので結局休息のために岩盤浴に行ったり、友達の家でゆっくり過ごしたりしていて、社会人になってから、日々がどんどん単調に、そしてそれがどんどん習慣となっている気がする。

中学生のとき、私にとってのゴールは割と偏差値の高めな高校に行くことだった。割と頑張ってあくせく勉強した。高校生のときもそう、とりあえず付属でくっついていて大学より良い大学に行くことをめざして毎日部活と勉強と頑張っていた。大学生の5年間は、その先にある進学や就職のことを考えて、焦りながら経験を積もうと必死になって、留学とか海外旅行とか、読書とか、とにかく色々頑張っていた。それで今、会社に就職できて、私は安心した。金銭的にも生活リズム的にも安定し、今、目指すべきものは当面の間何もない。

毎日の安寧と引き換えに、私は頑張るための指標を失ったのだ。と思う。進学、就職まで終わって突然、頑張って目指すための何かが消えた。だから、何をしても、「どうしてこんなことするんだろう」とか思って、働いていると、「一生こうなのかな…この生活は楽だけど、このまま死ぬのかな…」と思うようになったのだ。そういう風な思考になると、別に平日の夕方から始まるホットヨガも、毎週欠かさず見ていたテレビ番組も、英語の勉強も、同じく社会人の友人たちの大切な休日を自分と一緒に過ごしてもらうために割いてもらうことも、ぜんぶ、どうでもいいや。となってきたのだ。とりあえず安定してるから、どうでもいいや。って。

○じゃあ、どうしたらよいか。

社会人の素晴らしい手本が身近にいる。私の同居人だ。私は今年の3月から、高校のマーチングバンド部の同期だった友人と二人でルームシェアをしている。その同居人は社会人2年目だが、客観的に見ると、社会人という生活を謳歌しているよ

うに見える。何度も言うように、社会人になると、毎日を消費するように暮らすのが当たり前になってくる。(例えば夢に向かって何かをしたい、とか、自分は若いからこれからもっと高みを目指したい、みたいな欲が消え、だんだんと、ただ毎日働いていればとりあえず安心だ。と思うようになる)そこで、同居人は稼いだお金を使うための生きがいを自ら作り出すことにしたという。それが、推し活である。

同居人には大学時代から推している舞台俳優がいた。その人の出演する舞台にかけのお金は惜しまず、毎月毎月舞台を観劇していた。ファンクラブに入ったり、プロマイドを買ったり、グッズを買ったりして彼を全力で応援することに生きる意味を見出している。

「りんちゃんは彼氏もいないし、推し活もハマらないし、趣味もないもんね。私も推し活がなかったら、実際結構きついと思う。」

そして最近、マーチングバンド部の友人たちの中で流行しているのが、ジャニーズグループのSnow Manだ。私は高校のときから彼女たちと関わっているが、どの友人も、今までジャニーズに興味など一切なかった子たちだった。にもかかわらず最近になって(社会人2年目を迎え)、彼女たちは狂ったように推し活に精を出し始めた。社会人になってからSnow Manの推し活を始めた同期2人に感化され、もともと舞台俳優の推し活をしていた私の同居人までもがそのグループのメンバーの1人を推し始めた。やがて、誰の家に遊びに行ってもSnow ManのライブDVDを観たり、Snow Manが出ているテレビ番組を観たりするようになってしまった。私は全然推し活をしていないけれど、なぜかSnow Manの曲は大抵口ずさめるし、9人いるメンバーの顔と名前が全部分かる。

○趣味や生きがいを模索する

社会人に転生すること=気力をなくすこと。といったが、実際にはこうかもしれない。

「無趣味な社会人になること=気力をなくすこと」

お金を稼いだあと、その有効な使い道を見つけ自分を満足させられることは、ある意味では社会人として必須なスキルなのかもしれない。それによって日々の活力を得て、それを仕事に還元し、そうしてまたお金を稼ぎ、精神的に満足する。そういった「充足サイクル」をきちんと自分で作り出していくことこそが重要なのである。

私は実のところ、何かに興味を示す、ということがあまりない人なのかもしれない。と最近感じる。大学生のころ、私はよく「就活が趣味です」みたいな同期たちに会っていて、「すごいなー意識たかーやばー」みたいな感じで思っていたのだが、そういう人たちが今、どうしているかという、「あれ、自分何したかったんだっけ」

とやっぱり一度虚無になったり、逆に「こっから出世してやるぞー」みたいな感じで意識高く仕事を生きがいに頑張ったり、「これからの時代は副業！」と結局は会社生活とは別の何かに打ち込んだりしているようだ。

○大学生のときにやっておけばよかったと思うこと

なにかに時間を費やすことができるのが大学生の特権だ。私も大学生のころは無限に時間があって、特に就活を終えてからは、毎日英会話教室のバイトに入りまくっていた。けれどこれはもったいなかった。私がすべきことは、社会人になってからでも打ち込めそうな生きがいを見つけ出し、あのおとき投資できる唯一の資源、「時間」を投資することだった。

就活は大変。私もコロナ禍で就活だったので結構大変だったと思う。適当に就活をしていたので、なおさら当時は、ちょっと前まで売り手だったのにコロナ禍になっちゃって就職できないのでは…と焦っていた。今どんな状況に置かれている大学生も、絶対大丈夫。私は「なんだかんだ就職できた人」はたくさん見たことがあるけれど、「なんだかんだ就職できなかった人」はほとんど見たことがない。

大学生生活を就活に打ち込むのもめっちゃくちゃありだと思うけれど、就活を終えたあと、社会人が直面するのは「生活」という壮大な課題だと思う。今のうちから、将来お金を使って何をしたいのか、どういう生活を目標に毎日頑張りたいのか、自分の生きがいて、何？と考え、自由な時間があるうちにそこにたくさん時間をかけたらよいのでは、と思う。そうすることで卒業後も活力のある社会人になれるのでは…と個人的に、思う。私もそうになりたい。